創る ―研究者とともに―

小学校の外国語活動では、高学年の発達段階を生かし、活動の目標や相手意識、仲間意識を高める指導例、中学校「総合的な学習」では和文化学習で成果を挙げた事例を紹介。

小学校外国語活動 目標と相手意識持つ

愛知県知立市立
知立小学校
大山　和則 教諭

「英語活動を楽しみ、伝え合い、認め合う子をめざして―発達段階に応じたアクティビティの工夫を通して」の研究主題の下、昨年度からの成果を10月21日に発表した愛知県知立市立知立小学校（宇野成佳校長）。

知立小では、毎週木曜日の朝10分間の授業外での活動も含めて全学年で「大きな声で、あいてを見て、さあ話そう、Go！」という「お・あ・さGOタイム」の時間を位置付けてきた。保護者向けの英語活動便りの発行など、英語に楽しく触れる環境づくりのほか、全学年や特別支援学級で発達段階に応じた年間指導計画を作成。また「担任主導、ALTは音声の支援」と教師の役割を明確にしながら、授業で使えるオリジナル教材の工夫や電子黒板の活用などにも力を入れてきた。

1年生に読み聞かせ
動物の動作クイズ形式 伝える工夫を交流

この日、6年の4学級では「もみじ読書で1年生に英語のお話をしよう」（英語ノート2のレッスン8の内容と関連）という単元の4時間の内容に応じて、それぞれ授業を公開した。この単元では、絵本「Brown Bear, What Do You See?」を1年生に楽しんでもらえるように読み聞かせるという目標と相手意識を持って活動する。5年の時に学習した色の表現や繰り返すフレーズ表現などを生かし、それに登場する動物の動作や鳴き声に工夫を加えたり、1年生が見て分かりやすい紙芝居やペープサートなど、表現方法も工夫していく。班ごとに練習した成果を中間発表して、互いに良かった点を褒めアドバイスし合うことで、英語表現に自信を持つとともに、互いを認め合い、友達との仲も深めていくことを狙った。

オリジナルの絵で動物の登場を楽しく英語で伝える児童と、それを聞く児童たち

6年1組の大山和則教諭のクラスでは、4時間目に当たる「中間発表会をして、互いに評価し合う活動」に児童たちが取り組んだ。6人で一つの班をつくり、それぞれが絵本に登場する動物を担当して、順番に動作を付けたり、鳴き声を出したり、最後は全部の動物が登場する。担当する動物の声だけでなく動きなども表現したりと、1年生に内容が伝わるように工夫する児童たち。

交流する1年生たちの顔写真を使ったり、クイズ形式で、「さて、何匹の動物が登場したでしょう？」と問い掛ける班もあった。高学年らしい工夫が、相手に伝えようとする意欲を、さらに高めていたようだ。

中間発表会では、班の発表ごとに、赤いカードに、良かった点を、緑のカードには、アドバイスを書き込んで、他班に渡していく。声の大きさ、発音、鳴き声、動作のほか、班の協力やその他の気付いたことも書き込んでいくところが、単にスキルだけでなく、仲間を認める雰囲気づくりに役立っている。大型絵本で、動作も見ることができた」「熊の絵だと分かるように描くと、もっと伝わるのでは」などの意見が出て、自分の表現を振り返って、次はこうしてみようという意欲を持つ児童の姿が目立った。

知立小＝☎0566・8 1・1371

子ども主体の評価生かす

高橋　美由紀・愛知教育大学教授

知立小学校の英語活動・外国語活動は、教師の側からの評価だけでなく、子どもたちが中心になって、自分たちにも分かるように評価をしている点に特長がある。1年生に絵本を読み聞かせをするという活動の目標や相手意識を共有しながら、その準備のプロセスで、子どもたちが互いに評価し合っている。

来年度からの新学習指導要領の小学校で全面実施され、評価がとても重要になってくる。現在のところ、教師からの評価や、子どもたちも自分が楽しかったか、などの自己評価が多い。知立小の6年の授業例では「1年生に分かる読み聞かせになっているか」という視点から相互評価し合い、活動の質を高めることにつなげている。

評価に関しては、高学年にもなると、メタ認知の力も育ってくる。自分たちが主役になって活動しようという意欲と、そのために活動の質を高めていく相互評価ということが大切だろう。

高学年で子どもたちが互いに評価をする場合、恥ずかしがらずに、ジェスチャーまで付けて評価できるのも、同校の教師の工夫があるからだ。評価もまた、コミュニケーション能力の一つとして、とらえていることに注目したい。また、子どもたちをメーンにした評価の在り方もあることを同校の取り組みから学びたい。

知立小の公開授業では、各学年で例えば4時間の単元の各次数の授業を公開するなど、全教員が前向きに力を合わせて研究に取り組んでいる姿勢を感じた。同校では英語活動・外国語活動に自信のある教員がまず先頭を切って、その単元の授業を始めて、同じ学年の他の教師がそれを参考にしながら、授業を進めている。こんな授業公開のアイデアを実践できるチームワークの良さがある。このような意欲的な教師集団の姿が、子どもたちにも伝わるだけでなく、ALTや保護者・地域にも伝わっている。

愛知教育大学では12月26、27日に教員研修会を開くが、愛知県内や各地の小学校現場で実践している先生が発表を通して、自信を持ち成長できる場になれば、と考えている。中学校英語につなげるための外国語活動など、小中連携の在り方を探る機会にもしたい。

NWeb　Webに関連資料を掲載